

新年のご挨拶

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、去年は当院にとって収穫と同時に試練の年となりました。開設6年目の地域包括ケア病棟は平均利用率98%超を維持し、病院全体の経常収支率(4~10月)も関東信越にある32機構病院中第3位という好成績を残すことが出来ましたが、9月には再検証(再編統合)対象医療機関の1つに挙げられて誤解や風評の対応に追われました。年末には障害者虐待事案が発生してしまい、地域からの信頼回復とともにこれまで以上の地域貢献が求められています。

回復と言え、衰退した浮世絵版画を復興して新版画を確立し、「旅情詩人」「昭和の広重」などと呼ばれた川瀬巴水(かわせはすい 1883-1957)の作品を観る機会が昨年ありました(小杉放庵日光美術館)。伝統的な叙情的世界に卓抜した描写と近代的感覚を導入して国内より海外での評価が高い巴水ですが、親の反対や遅い入門そしてすべてを失った関東大震災など、彼の人生は苦勞の連続でした。度重なる挫折を乗り越え“諦めない心”で画業に挑戦し続けた川瀬巴水のように、時代や社会の変化に対応して果敢にチャレンジすることが今の我々の使命であると考えます。

今年の干支(えと)は庚子(かのえね)ですが、「新たな芽吹きと繁栄の始まり」「うまく轉身できて大きな成功への一歩を踏み出す」という意味があるそうです。時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。地域との連携をより一層推進させながら、治らない病気や重い障害があっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられる「地域包括ケア」の構築と、高齢者や障害者など全ての住民が相互に支え合いながら、暮らしや生きがいを創り高め合う「地域共生社会」の実現を目指して努力いたしますので、本年もご支援とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。



「芝 増上寺」(川瀬巴水)